

日本一小さい 新幹線のまち



人口2800人、本州最北端の町に新幹線の駅ができました。

経営の厳しいJR北海道は、今別町に新幹線駅を作るのに悩んだでしょう。それを実現した今別町と関係者の方々の努力に敬意を表します。

番地銘石は長年に亘り今別町で石工事をしてきました。地元のお寺や共同墓地のお墓工事以外にも、青函トンネルの銘板、吉田松陰の来訪を記す碑、高木恭造氏の詩碑などなど。そんなご縁に、ちようど北海道新幹線開業のタイミングで、何かお返しがないとずっと考えていました。

当社の月見野工場に30年以上横になっていたインド産の黒い御影石、巾3・4m高さ2m重さ3トン。これなら新幹線の駅にふさわしい！問題はどうかやって今別町とJR北海道に許

可をもらえるか、悩みながら青森県庁を訪ねると、ちようど県から今別町に新幹線の対策責任者として出向中の小野成治さんを紹介されました。小野さんを通じて今別町の阿部町長と面談するとすぐ快諾いただき、町有地ならばJRに関わりなく設置できることになり、駐車場の入口前の緑地に決定。ちようど観光客が記念に写真を撮るのに絶好という場所でした。

それからは、当社のねぶたが大好きな社員が下絵を書き、工場ですてを磨き、専用の



彫刻機で絵を仕上げ、地元の建設会社に基礎工事をしていただき設置完了。除幕式には社員全員で参加しました。開業の1ヶ月前イベントとして、マスクミに取り上げられ社員も照れ臭そうながら、ちよつと鼻高々だったような気がします。



小野さんと当社社員

小野成治さんは平成28年7月18日、今別町のイベントにボランティアとして参加し、自転車運転中に倒れ急逝されました、謹んでお悔やみ申し上げます。

なぜこの仕事ができたかを振り返ると、8年前になります。青森県中小企業家同友会の研修に参加し、会社の経営の指針、経営理念を創りました。その一文をずっと思い描いていました。

私たちは地域の文化を大切に

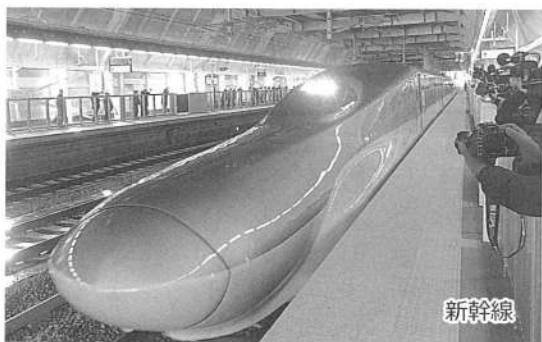
心の豊かなふるさとづくりに

貢献します

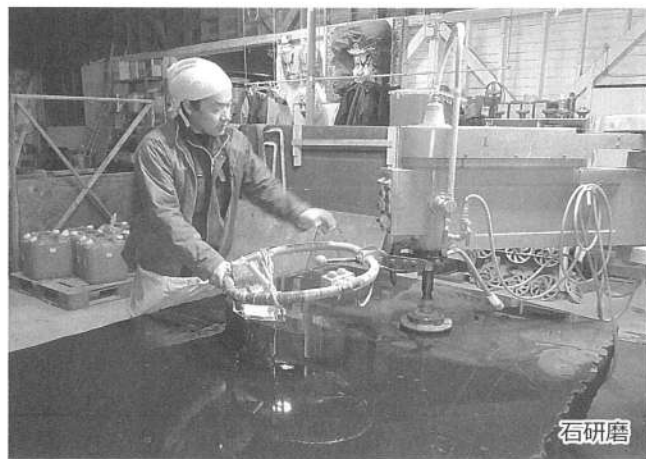
この理念で、得意な石を使って、今別町の江戸時代から伝わる祭、荒馬を彫りました。

今別町は日本一小さい新幹線の駅ですが、町の文化を大切に、誇りに思う若者が育って欲しいという願いをこめました。現在、今別町だけでなく青森県全体で人口減少、特に首都圏への若い人の流出が加速しています。私も最初の就職は東京でした。一度は大都会で働き、ラッシュユアワーや計り知れない大企業の活動に触れ、海外とのやりとりをしたり、凄い人との交流を体験するでしょう。

それからずっと都会で死ぬまで過ごすか、どこかでふる



新幹線



石研磨

さとに帰るのかと悩むときが必ず来ます。その時、子供の頃の思い出がきつと心の底に残っているでしょう。それがシンボルとしての荒馬だと思っています。

そして、都会のサラリーマンであれば、帰るときに田舎でどの会社に就職しようか、事業家ならば受け入れる仕事場を若者に提供できるかが問われます。都会から地方へ人を引き込む為になにを創り上

げていくか。

私たちは青森の小さな石屋ですが、志を大きく、そして遠い先を見ながら、目の前にある石を刻んでいきます。

(番地常夫)



記念碑